

臨床研究の実施に関する情報公開

掛川市・袋井市病院企業団立中東遠総合医療センターでは、臨床研究倫理審査委員会および病院長の承認を得て、下記の臨床研究を実施します。関係各位の御理解と御協力をお願い申し上げます。

| | |
|-----------------|---|
| 研究課題名 | 急性期病院の内科病棟における身体拘束最小化実現の要因：看護師の記述内容からの検討 |
| 目的及び方法 研究対象者 | <p>日本では、高齢者の人数が増加し続けています。そして、高齢者の人数の増加に伴い、認知症を有する方も増加しています。急性期病院に入院する高齢者や認知症の患者様は、疾患の症状や治療に伴う苦痛、環境の変化などによる混乱から、治療に必要なルートやチューブの抜去や転倒転落を生じやすく、その対応として身体拘束が行われることが少なくありません。身体拘束は、死亡率の上昇や、関節拘縮などの身体的障害、人間としての尊厳の侵害やせん妄・BPSDの発症といった精神的障害、ケアスタッフの士気低下などの社会的障害といった弊害をもたらすことが報告されています。このような中、令和6年診療報酬改定により、身体拘束最小化の取り組みが求められるようになりました。以上から身体拘束の最小化は、患者やケアスタッフにおける弊害の発生を防止するだけでなく、安定した病院経営を目指す上でも求められるものとなっています。</p> <p>先行研究において、看護師が自分自身を守りたいという潜在意識や判断基準が明確でないことなどにより、身体拘束解除に踏み切れない現状にあることが明らかとなっています。しかし、実際に身体拘束最小化を実現した要因を検討した報告は見当たりません。そこで、身体拘束最小化を実現した要因を、身体拘束最小化を実現している8階西病棟の看護師の皆様の記述内容から明らかにすることを目的に研究を実施することとしました。本研究の結果は、今後、身体拘束最小化に取り組む際に、重要な示唆を与えるものとなります。</p> |
| 利用する情報の項目と取得の方法 | <p>アンケート記載内容から下記の項目を利用します。 年齢・看護師経験年数・アンケート自由記述内容</p> <p>※本研究で収集された情報は、将来、身体拘束最小化に関する研究においても重要なデータとなる可能性があります。その際には今回ご協力いただいたデータを、他研究に活用させていただく可能性があります。二次利用に際しては、臨床研究倫理審査委員会および病院長の承認を得た上で、非識別化した情報を用います。</p> |
| 研究実施期間 | <p>実施期間：研究機関の長による実施許可日～2026年3月まで</p> <p>研究の進捗によっては倫理審査委員会の承認を得て延長する場合があります</p> |
| 研究機関の名称及びその長の氏名 | <p>研究機関名：中東遠総合医療センター</p> <p>機関の長：院長 宮地正彦</p> |
| 研究責任者 | 中東遠総合医療センター 8階西病棟 看護師 森山寿伸 |
| 利用する者の範囲 | 中東遠総合医療センター 看護師 寺田千尋 松井宏太 |
| 情報の管理者 | 院長 宮地正彦 |
| 研究の拒否について | この研究のために情報が使用されることにご了承いただけない場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。除外の申し出により不利益を被ることは一切ありません。ただし、すでにデータ化された場合は除外できない場合がございますので、ご了承ください。 |

| | |
|-------------------|---|
| <p>個人情報保護について</p> | <p>本研究に関わる関係者は、研究対象者の個人情報保護について、適用される法令、条例を遵守します。また研究関係者は、研究対象者の個人情報およびプライバシー保護に最大限の努力を払い、本研究を行う上で知り得た個人情報を正当な理由なく漏らしません。研究関係者がその職を退いた後も同様とします。</p> |
| <p>問い合わせ先</p> | <p>◆その他、この研究に関するお問い合わせ、苦情等ございましたら下記へご連絡ください。 掛川市・袋井市病院企業団立中東遠総合医療センター 8階西病棟 看護師 森山寿伸 電話 0537-21-5555（代表）平日9：00～16：00</p> |